

るが、すべて打消しの言い方と対応した用法ばかり)

拡大、深化された用例

- 君の考えていることは全然おかしい。
- あなたの方が全然正しい!
- 全然バカけている。
- 彼の一言は会議を動かすほど全然核心をついた提言であった。

(「まったく」の言い方に慣れていて①③の用法になじみず、習熟深化にいたらない)

(三)表現を通して語彙の拡大、深化をはかる試みの一例

ここでは以上の他に、印象に残った「ことば」や興味をおぼえた語句を手がかりとして、作者の表現にふれながら次の作業を行う。

1 印象に残ったことばや興味をおぼえた語句を挙げさせる。

2 1で挙げた語や語句について、具体的にどのようなことを表現したものを説明させようえで、その部分を言い換えさせる。

3 作者の表現と自分たちの言い換えを比較してみる。

(1)印象に残ったことば、興味をおぼえた語句の例(順不同)

- ◎夜の底 ●永久におしのごとく
- 雨やみ ●手に従って抜ける
- 片を付ける ●足音を盗んで

- ◎濁った黄色い光
- ◎ほおをぬらしている

(2)「具体的に……」の例と「言い換え」の例

A、下人は、……この「すれば」の片を付けるために、

- ◎具体的に
- 盗人になるかならぬかを決める
- 盗人になることを肯定する

- ◎言い換え
- 片付ける ●はつきりさせる
- 決を下す ○けりをつける

△心を決める ●決着をつける

●答えを出す ●(に)終止符を打つ

B、楼の上からさす火の光が、かすかにその男のほおをぬらしている。

- ◎具体的に
- にじんだ油汗を照らしている
- 雨にぬれたほおを照らしている
- 暗くぼんやりと映し出している
- じめじめした空気の中で、無気味に照らし出している

C、これは、その濁った、黄色い光が……映ったので……

- ◎具体的に
- 死体に反射して鈍くなった光
- 死人の皮膚の色を反射したような光
- 異様な雰囲気を感じさせる光

- ◎言い換え
- △薄暗いぼんやりした光
- 不気味な火の光
- 暗闇の中のかすかな光

●怪しげな火の光

●火の玉のような光 霊気を帯びた光

●暗くよんだ光 ぼやけた鈍い光

●不気味に光る黄色い光

●不気味な雰囲気の中のぼやけた黄色い光

D、髪は手に従って抜けるらしい

- ◎具体的に
- ゆるく引くだけでするすると
- △何の抵抗もなく抜ける様子
- 抵抗なく容易に 簡単に
- 死体が腐敗していて髪の毛が抜けやすくなっている状態
- 軽くひかれるだけで簡単に抜ける状態

E、下人は、……瞬間に急なはしごを夜の底に駆け下りた。

- ◎具体的に
- 明りのとどかない真暗闇の中
- △一寸先も見えない真暗闇の中
- 暗くて深い闇の底 夜の暗黒

- ◎言い換え
- 真暗な夜よりも、もっと暗い悪の道
- 真暗な夜の中で更に暗い地の底のような悲惨な世界
- 盗人の横行する暗黒の世界
- 暗黒と共に悪の世界を表現したももの

△暗く深い闇の中

△暗闇の世界 } 真暗な闇の中

- 漆黒の闇 夜の果て
- 暗たんたる闇の広がりの中
- すくい難い暗黒の世界
- 暗い暗い地獄の闇
- 地の底のような暗がり
- 悪の世界の闇
- 黒洞々たる夜
- ぶきみな夜の闇

三、具体的な把握のあり方と言い換えについて、この様な実例を生徒に示す。

- 1 比較する。
- 2 選択する。
- 3 作者の表現の意図をさぐる。
- 4 作者の語彙の選択の正確さを学ぶ。

四、結び

以上の作業を通して、理解し鑑賞する側での語彙の拡大、深化ということから、作文、創作する側としての語彙の深化、拡大ということへの橋渡しが可能となるではないだろうか。